

## 2016 年中の「画期」

## 【画期とは何か】

小学館の国語辞典「大辞泉」で「画期」という言葉を調べると「過去と新しい時代とを分けること。また、その区切り」とある。

2016年の中で「画期」があるのだとすれば、何と言っても英国のEU離脱決定と米大統領選の2点は必須であろう。

両方とも、識者による事前予測が外れ、あたかも、前時代的価値観が亡霊のように蘇ったと思われた。例えば、英国においては孤立主義への回帰や排外主義的な移民反対であり、米国においては更に過激さが増し、同性愛やメキシコ人への排除、ブロック経済志向などである。

## 【真の対立】

しかし、いつまでもこうした対立軸で捉えている限り問題は解決しない。逆に2016年の大きな政治的収穫を見逃してしまうと筆者は考えるのだ。これらの問題の真の対立軸は、貧困層とエスタブリッシュ——つまり支配層にある。あるいは没落した中間層と、政府資金の援助によりリーマン・ショックの中でも焼け太りした富裕層との対立図式と考えてもよいだろう。

そう考えると、何故ドナルド・トランプが「錆びた州」——古い製造業の盛んだったところ——で連戦連勝したのかがわかる。実はオバマ政権が最も資金援助、つまり税金投入したのはこうした錆びた州であった。例えばミシガン州あたりがこれにあたる。

この時、経営者は国から多額の再建費用を手にとると、新工場を地元ではなく、よりコストの安いメキシコに建てた。多額の税金はGMやクライスラーを助けたが、錆びた州の白人労働者の雇用は奪われた。経営に失敗した経営者は国からの資金援助で生き残る一方で、真面目に働いた自分や仲間は捨てられ、コミュニティは崩壊、兄弟は薬物中毒になり、子供は働き口が無いと出稼ぎに行き大都会の最下層に組み込まれ…。そこには絶望しかなく、待つのは死だけであった。トランプはそこに取入る「私は味方だ。私だけがアメリカを変える。既存の支配層は信じるな」と。

これは彼らにとって強烈なメッセージであつた。そして彼らは藁をもすがった。経営者はメキシコに富を流出させ、オバマは難民を流入させ、僅かな国内の雇用すら奪う。オバマは信用出来ない。ましてや、クリントンなど信じられるはずもないと…。

### 【世紀末的】

こうした貧困問題 — あるいは富の集中は過去にもみられた。

実は経済が反映している状況では、こうした構造問題は隠れがちである。産業構造が変化しても、他に雇用の吸収が出来る限り、問題は表面化しない。しかし、大きな好景気の後の深刻な不況、あるいはその不況後に問題は顕在化する。何故なら、不況の影響は全ての階層に均一にのしかかるが、その後の好況はごく一部——端的に言えば、富裕層にしか恩恵を及ぼさないからである。

通常この時期に社会主義的なインフラ投資で乗り切れば、問題は顕在化し難くなる。一方、逆に資本家と支配層、経営者だけを助けると、大きな社会不安と貧富の差が更に広がる事になる。

例えば米国の金ぴか時代 (Gilded Age : 1865 ~ 1893 年) 後の不況では社会主義運動の激化という形で明らかに失敗したが、その後 1929 年に端を発する世界大恐慌では、ニュー・ディール政策という極めて社会主義的な復興の形で社会不安は減少した。

日本では第一次世界大戦後の「成金時代」の後、高橋是清の財政処置で復興した。しかしこれは社会インフラでの雇用吸収ではなく資本家救済であつたため、疲弊する農村からの改革を指向する多くの極右、極左運動が生まれ、社会不安が激化した。結果的にこうした極端な貧富差は革命運動を助長、最終的にはその反動としての極右 — 国家社会主義を生み出す事になってしまった。

2016年の画期は、こうした貧富の差と支配層と貧困層という新しい対立が、憎悪と相互不信にあふれた1930年代の世界に似た状況を世界に生み出しつつあるという事だ。

これは21世紀初頭に米国が一国覇権を宣言し、民主主義と富が世界を平和にしていくという楽観的な世界観の真逆である。

国内政治は常に不安定になり、暴力とテロが横行し、宗教や民族、価値観は互いに不寛容。対立は個々の集団を維持・結束させるために不可欠で、そのため対外戦争は非常に起こりやすく、その収拾はどんな政治家にとっても困難となってしまうだろう。

【怒りは失われず】

今回の選挙戦でのトランプ陣営の戦略は非常に巧妙であった。

過去、ビックデータや選挙予報は「声の大きい人」「選挙に多く出かける人」に基づいていた。無風、無関心、争点なき選挙でこうした調査は驚くほどの中する。だが、本邦でも何度か起きた「地滑りの」勝利は、実はこうした層ではなく、過去政治に絶望、あるいは無関心で不参加だった有権者が動いた時に起きるのだ。

トランプ陣営はあえて「何度も選挙に行く人」「政治に関心が高い人」を無視。政治に絶望する人、移民に怯える人、現支配層に怒る人 — そうした人々に焦点を絞った。ある時は彼らの怒りに火をつけ、変革の希望を語り、時には自分自身の人格的な弱点すら見せながら、するりと彼らの懐に入って行ったのだ。

人間は、完全な人間よりも親しみがあリ、自分にとっては許せる多少の欠陥を見せた方がより強く心情的に応援してしまうものなのである。トランプ大統領の差別発言は、その多くは白人層の本音であり、また女好きは支持層にとっては可愛くすらあつた。

その一方で、支配層でありリーダーであるクリントンが法律を破ってメールを使ったのは彼らにとっては逆に特権階級による特権の濫用に見える。人格否定合戦はその意味ではクリントンにとっては致命的だったが、トランプにとってはあまり致命的ではなかった。絶望や怒りはそう簡単に消えるものではない。ビックデータの影にもう一つの米国が深く異議を唱えていたのだった。

**【これからの展開を読む鍵】**

歴史に“if”は厳禁だが、トランプの対抗馬がヒラリー・クリントンでなくバーニー・サンダースだったなら、と考えると非常に興味深い。この場合、民主党はもっと善戦した可能性がある。

オバマもビル・クリントンもアウトサイダー（中央政界の素人）だったから勝てた。それほどワシントンと支配層は嫌われている。

サンダースは異端中の異端であり、同時に間違いなく熱狂的な支持者がいた。形を変えても「既成権力 vs 貧困層」という対立構造が今世紀のカギだ、と筆者は考えている。この対立構造の一つを支えるのは、トランプや極右に代表されるような孤立主義・民族主義・国家主義・排他主義を色濃くする一連の「国家社会主義的勢力」であり、もう一つは、サンダースのようなより開かれ、自由よりも平等を重んじ、社会的正義を推し進める「社会主義的な勢力」であろう。どちらも現状に強い「NO」を謳うが、解決方法とメソッドは大きく異なる。故に21世紀の「国家社会主義」と「社会主義」の対決は案外身近に迫っているのかもしれない。

# ザ・テクニカル

早ければ  
年末年始に 2 万円

日経平均株価はトランプショック後の安値 16,111 から先週末は 18,000 円台に到達。僅か 7 営業日で約 1,900 円幅の上昇。確か、2014 年 10 月末日銀の異次元緩和第二段の時、日経平均は直前の安値 14,529 (14 年 10 月 17 日) から 11 営業日で 2,600 円近く上昇した (11 月 4 日 17,127)。今回の上昇幅とスピードも同時に匹敵するものがある。仮に今回も 2,600 円幅を上げるとすれば、18,700 円レベルとなる。当時はその後、4 営業日の僅かな調整を入れて再び反騰、1 か月後に 18,000 円に達した。安値 (当時の 1 年サイクルボトム) から 8 週間ではば 3,500 円幅を上げたことになる。

このロケットスタートが今回の起点 (11 月 9 日) から始まっているとすれば、その 8 週間後、即ち来年 1 月第 1 週には 19,600 円程度にはなっているだろう。また当時 (14 年末) の上昇率 (24%) で見れば、今回、約 2 万円となる。

やや物足りないと思われる方は、昨年の高値 20,950 を見ているからだろう。ただ長期サイクルの上昇期の初期に入っている場合は前サイクルの天井からボトムに至る時間幅に対して、

## 今週の必押し

初戻りは売りたい

前週の米国大統領選以降下げ基調になっていたユーロドル相場だが、先週もその流れを引き継いだ。チャートは 10 営業日連続陰線。これは 1999 年のユーロ導入以降で最長。ドル円相場の上昇も 2 週間ベースの上げ幅としては 1988 年以降で最大であったと、WEB 版のブルームバーグは報じている。

ユーロドルの戦略に関して、当欄では先週次の通り記述“…慎重派は買い玉の利食いが出来、積極派はドテン売りする事が出来たかと思う。しかし、3 営業日で動いた値幅が 0.047 とは大き過ぎ。これは 10 月 1 カ月の値幅に相当する。従って積極派の売りは週初で利食い、今週は全トレード様子見としたい”。先週 14 日は 1.0840 を高値に 1.0708 まで下落したのでこのあたりで利食いできたかと思う。

14 日安値は先週も掲載した日足の下降チャネルラインの第 1 下限エリア。筆者はここでいったん切り返すと見ていたが、「休むも相場」で様子見を推奨しておいて良かったとつくづく思う。下げ相場は翌日も続き、18 日には 1.06 割れ。引け値こそ戻したものの一時第 2 下限エリアを割り込んでいた。

## 今週の主な予定・経済統計

11 月 21 日 (月) …下弦

・ドラギ ECB 総裁、議会証言 ・安倍首相、記者会見

11 月 22 日 (火)

・米 2 年債入札 (260 億ドル) ・10 月の米中古住宅販売件数

11 月 23 日 (水)

・【日本】勤労感謝の日のため休場

・10 月の米個人支出及び個人所得 ・10 月の米新築住宅販売件数

・10 月の米耐久財受注 (前月比 1.2% の増加予想、前月は 0.3% 減)

・11 月の米ミシガン大学消費者信頼感 (91.6 の予想、前月は 91.6)

・米 5 年債入札 (340 億ドル)

・米週間新規失業保険申請件数 (前週は 23.5 万件)

・FOMC 議事録公開 (11 月 1 ~ 2 日分開催分)

11 月 24 日 (木)

・米 7 年債入札 (280 億ドル: 入札合計は 880 億ドル規模)

・【米国】感謝祭のため休場 (株式・商品・債券)

・11 月の独 Ifo 景況感指数 (110.5 の予想、前月は 110.5)

11 月 25 日 (金)

・【米国】ブラックフライデーにつき短縮取引 (株式・債券)

・10 月の米卸売在庫 (前月比 0.2% の増加予想、前月は 0.1% 増加)

次の新強気サイクルの上昇期では前サイクルの高値近辺に到達するスピードは早くなる傾向がある。つまり、日経平均の前サイクルの天井は 2015 年 6 月につけ、ボトムは 16 年 6 月と 1 年間下落した。次の新サイクルではそれより短い時間でその高値に届くはず。もしそうでなければ新 1 年サイクルは弱気型か中立型になる。強気型では早いケースで、下げ期間の半分で到達することもある。これは新 1 年サイクルが非常に強いことを示す。

この例は金相場で見ることがある。2008 年 3 月、NY 金相場が初めて 1,000 ドルを付けた後、リーマンショックで 10 月に 681 ドルまで下げてボトムを付けた。この期間は 7 カ月。この安値は 8 年サイクルボトムにもなったが、その後僅か 4 カ月で再び 1,000 ドルまで上伸し、前 8 年サイクルの天井近辺に達した。

今回の日経平均は 6 月ボトム、遅くとも来年 6 月前には元に戻っていることだろう。上述の金相場並みのスピードであれば、年末年始には 2 万円相場は十分射程内。

短期的な見通しについては先週のコメント「目先は 20 週サイクルの上昇期は 10 週以上続くと想定される (強気型サイクル)。そのターゲットは  $18,720 \pm 308$ 、さらに、 $20,332 \pm 498$ 。このシナリオは 9 日の安値が更新されるまで有効。

先週の相場で第 2 下限エリアがサポートされた事は別として、先週末で 15 日スローストキャスティクスが %K、%D 共に 2 % 台に入っている事、10 営業日連続陰線ここからは怖くて新規売り出来ない事、更に 24 日の感謝祭からホリデーシーズンに入り、今週はそろそろユーロ売りの買戻しが入ると予想され、いよいよ乾坤一擲新規買い勝負である。と、一般投資家にとって買い注文が出しやすい週になるのではないかと筆者は予測する。

実際、相場は今週、上記の理由で感謝祭前後あたりまでに 1.08、もしくは 23 日移動平均 (先週末で 1.0903) 付近まで戻る可能性はあるだろう。しかし経験則上、相場は得てして注文が出しやすい相場方向の逆を行くパターンになる事が少なくない。故に今週は買いではなく売り、理想としては戻り売りを推奨する。

勿論、慎重派は今週も「休むも相場」を実践して良い。昨年 3 月からの相場は 38 週、29 週で安値が出現している事を鑑みて、節目となる安値は本年末から来年始めに出現すると見る。売りの根拠は、先週の引け値で昨年 3 月安値に起因するトレンドラインを割り込んだ点にある。上記目標日柄に向け、相場は少なくとも 1.045、もしくはパリティ (1 : 1) になると予測。買い参加はそこまで待ちたい。なお、売りの損切りはリスク許容度に応じて 1.0950 か 1.115 以上の引け値に置きたい。



### 今週の相場風林語録

#### 一度に仕掛けるな

証拠金 (あるいは相場資金) 目一杯に、一度に仕掛けるのは戦術として感心しない。初めは様子を見るための小さな玉、いわば斥侯である。それから本隊を二回か、三回に割って出動する。ただし、同値水準で、カタマリ玉にならぬよう。



今週の**九星★波動**

南雲 紫蘭

## 波動逆転か？

「いったいどうしたことだ」。

そんな相場参加者の絶叫が聞こえてきそうなジェットコースター相場でした。クリントン勝利を確信したマーケットは、あたかもプレグジットが回避されると思われた国民投票当日のように買われていました。

しかし、トランプ氏有利を見ると、徐々に値を下げ、激戦州でのトランプ氏勝利の報道が出始めると、急落。一時は101円台に突っ込む有様。ところがトランプ氏の融和的記者会見を見るや、米国分裂の恐怖感は、あっという間に財政投入、規制緩和的政策、法人税減税といった新大統領の施策が、勝利した共和党の上下院を通すことによって非常に強い景気回復と財政赤字による金利上昇を見込み始めたのです。

すると、ドル円相場はあっという間に105円を回復してしまいました。

## 相場指南道場

## トレーダーあすなろ物語 (371)

中原 駿

目が覚めた。

上野の手はぐっしょりと濡れていた。掌の汗か。いや、それだけではなかった。スーツの中にあるシャツにも汗がたっぷり出ていた。上着の中の汗が激しく水蒸気を出しているようだった。あたかもそれは上野の長年に及ぶ損失が一気に噴出したような激しい蒸気だった。顔を触る。上あごのあたりにもびっしょりと汗が出ていた。

「大丈夫ですか？」

キャビンアテンダントが心配そうに覗き込んできた。

「大丈夫だ。心配はいらない」。「よかったらお使いください」。そういつて、CAはおしぼりを差し出した。

第六感の**新5年サイクル始動**

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

## 次の上昇は30円幅

ドル円相場はあっという間に110円台に到達。まさにリング相場、一「どうにも止まらない」、「噂を信じちゃいけないよ」。

トランプショックで売り込んだ投資家の踏み上げ相場、そして、ショック前にロングを仕込んでいた投資家もその後の急落時に完全に投げてしまっており、相場は暴騰しやすい環境にあったといえるだろう。

サブサイクルについては前回述べた通り。「現段階では11月9日に6週でサブサイクルが短縮されてボトムを打ち、今週は新サイクルの1週目と考えるなら、この水準は依然として買い場である。新サイクルの目標値は109.97±0.64」。

1週目に到達してしまった。この強さは尋常ではない。おそらくサブサイクルだけでなく、1年サイクル、そして5年サイクルも今年6月にボトムを付けたと考えざるを得ない。

5年サイクルボトムについては当初、大統領選以降、来年3月までに付けるとのシナリオであったが、トランプ勝利のショック安が101円で止められ、6月のプレグジットショック時の安値99円を下回ることにはなかった。

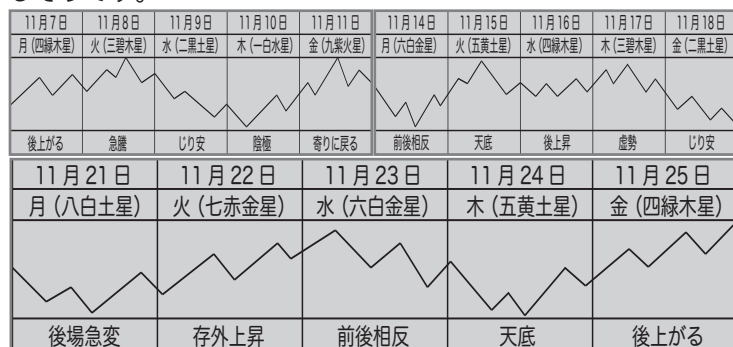
したがって、6月に最初のボトムを付け、9月末にトリプルボトム、11月9日、離陸前に買い方を振り落として、急騰劇の幕開け。相場の神様が良くおやりになる手だ。

2011年10月末から始まった新5年サイクルは翌年2月に急騰したもの、9月に向けて買い方を振り落とす下げ相場に

この相場、果たして勝った人がいるのか？疑問に思わざるを得ません。

さて、九星波動は月盤《二黒土星》も3週目。前は前半ドル急落、後半はドルじり安という展開。今までのところ、波動逆転の雰囲気濃厚ですので、11月中は高いと考えます。

12月頭は少し緩んでも、年末は再び高い、そんな相場が示現しそうです。



上野はそれでまず顔をぬぐい、次にシャツのボタンを2〜3つ外して、脇や胸を拭った。

本当なのか？ 上野は大きく息をついた。深呼吸だ。深呼吸しなければ。まるで酸欠のように汗は出続けている。焦燥感と現実ではないような不思議な感覚が上野を支配していた。

「もう一度確認だ。もう一度だ」。そう上野は自分に言い聞かせて、目の前にあるファイルを見た。

ファイルは閉じていた。

綺麗に糊付けされている。開けた形跡がない。もう一度、上野は大きく息をついた。

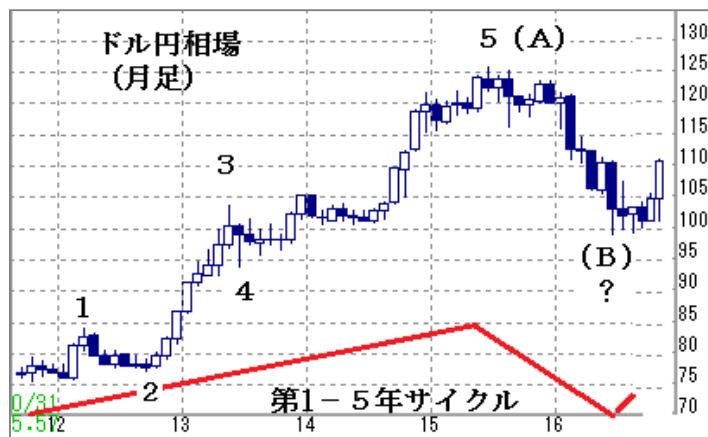
悪夢だった。夢だったのだ。上野は安心して大きく息をついた。せつかくの休みなのに、こんなことでは洒落にならない。仕切り直しだ。とにかく休憩することだ。

もう一度上野は目を閉じてみた。だが、一向に眠くならない。寝たらまた悪夢、と思えば眠れないのも無理はなかった。

突入。買い方がほぼ全滅したところで、12年末から急騰劇が始まった。

今回も同じようなリズムを感じる。これが事実なら、アホになって買うしかない。

新5年サイクルのターゲットは130円台。これは第1〜5年サイクルの上昇幅の61.8%であり、最低のターゲット。ただし、5年サイクルが連続して強気型になる必要がある。ところが、過去40年間、連続して強気型が出現した例は1度もない。ここがっかりする必要はない。今回は異なると筆者は観ている。何故なら、第1〜5年サイクルの上昇波が修正波動には見えないからだ。これはきれいに5波動を刻んでいる。つまり、非常に長期の16年クラスの流れでは上昇がまだ続くと思う。従って次の新5年サイクルも強気型になろう。後は数年続く上昇についていけば良い。



## サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

## 【第16回】NY原油のサイクルについて (3)

NY原油は政治銘柄と言われる事が。つまり、その時の国際情勢で好まれる方向性があると言う事です。そうするとサイクルには歪み(短縮や延長)が生じやすくなり、前回のように複数のサイクルが出て来る時があります。その場合、移動平均を分析指標の1つに加えると判断の精査に役立ちます。

実はメリマン氏の著述で登場する移動平均の日柄には「有効なサイクルの半分の日柄」を用いるという法則性があります。

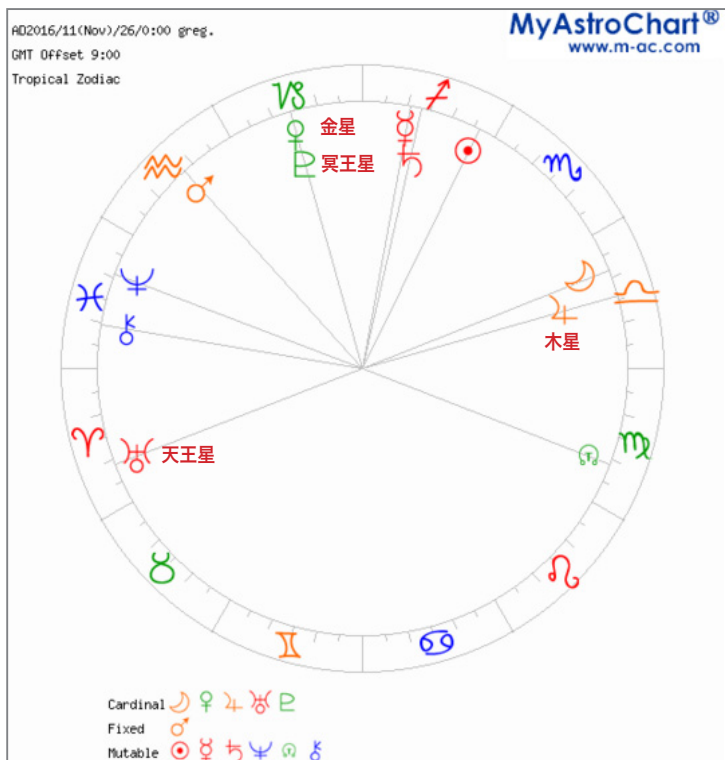
ここまで、当欄では18年、9年、3年サイクルが登場しました。9年の半分は54カ月、3年の半分は18カ月。これが前回の月足でこの2つの移動平均が用いられていた理由です。短期線が長期線を上回り、相場が両線を上回っていれば強気、その逆が弱気。中間がニュートラル。割れたり突破したりすればサイクルの節目確認という見方が出来るのです。これを踏まえて、今回は更に3年サイクルを細かく見て行きたいと思います。

## メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

ではここでホロスコープをご覧ください

私見ながら、11月6日に始まったヘリオ射手座ファクターは金やユーロドルの上昇よりも下落との関連性が高いと見ている。そのファクターが16日に終了。ユーロドルは18日に1.0569まで下落したが、筆者は星回りの今週反騰場面と予測する。

では、どのあたりまで上がるか。25日前後の時間帯が怪しい。今回、日本時間11月26日午前0時のホロスコープを掲載してみた。25日(米国時間24日)の寄りつき直前に出現する木星・冥王星スクエア(90度)と同日夜23時前に出現する金星・木星スクエアに筆者は注目している。金星も木星も金融市場全てに影響を与えやすい惑星だが、これらがスクエアというハードアスペクトを形成するという事は株式や米ドルにはネガティブ、金やユーロドルにはポジティブに働くものと考える。



3年サイクルは2分割(18カ月)か3分割(1年)されますが、08年12月安値から見ると2分割が有力。15~22カ月の間隔で節目を探すと13年4月までこの見方が有効です。そこから15年3月までは23カ月。これも延長と見る事が出来ます。

問題はここから11カ月目が16年2月安値。今月はそこから9カ月目という点。ここが第三(最終)3年サイクルなら18カ月平均を引け値で割り込み2月安値を試すでしょう。ただ最終サイクルは短縮しやすく来年大底をつけるかもしれません。

逆に18カ月平均が維持され70ドルに向けた上昇が続くなら、16年2月安値が短縮3年サイクルボトムとなるはずですが。



もう一つ注目したいのは“ハブニング”の星、天王星の存在。先述の3惑星と天王星は、カーディナルサインの牡羊座、天秤座、山羊座で広義ではあるがT字スクエアの関係になる。従ってここが反転ポイントになるのではないかと筆者は見ている。

では、もしこの予測通りに各相場が反転した場合、次の反転ポイントはどこになるのか。12月26日前後が怪しい。

12月27日(米国時間12月26日)3時半ごろ、木星と天王星はオポジション(180度)の関係になる。その2日前の25日に土星と天王星、金星と木星はそれぞれトライン(120度)の関係に。トラインは惑星間が良好な関係である事を示すソフトアスペクトと呼ばれる天体位相。良好転じて上昇のピーク、即ち天井と関連性が高い。これは株式や米ドルにはポジティブ、金やユーロドルにはネガティブに働くものとする。

更にこの時間帯は12月19日~2017年1月8日まで発生する水星逆行の中間点(12月28~29日)。筆者はこのエリアで大きな相場の節目が出現するものと予測する。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み!!

## 今週のアストロロジー info

- 11月21日(月) 原油トレンドの変化に警戒
- 11月22日(火) 24日前後3営業日の転換オープン
- 11月23日(水) 明日の天体アスペクトに警戒
- 11月24日(木) 木星と冥王星、金星、天王星でT字スクエア
- 11月25日(金) 24日前後3営業以内
- 11月26日(土) 相場道、最後はあきらめの哲学に通じる
- 11月27日(日) 相場世界にも押し寄せてきたディープ・ラーニング

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。  
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

**フォーキャスト2017**

アストロロジーとサイクルで  
2017年の相場を読み解く究極の書

レイモンド・メリマン 著 秋山日輝香・投資日報編集部 訳  
投資日報出版発行 8100円(税込・送料別)

12月26日発売予定

ご予約受付開始!!

簡単・便利な『投資日報オンラインショッピング』もご利用ください。

お問い合わせ: 投資日報出版(株) <http://www.toushinippou.co.jp/>

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-12-11 GRANDE 人形町6F 電話: 03-3669-0278 FAX: 03-3668-4444